

あたらしくはいった本 (令和4年2月 貸出開始資料から)

- 小説 母の待つ里(浅田次郎/著) おんなの女房(蟬谷めぐ実/著) 階段ランナー(吉野万理子/著) ブラックボックス(砂川文次/著) 少女を埋める(桜庭一樹/著) サンセット・サンライズ(楡周平/著) かくして彼女は宴で語る(宮内悠介/著) 奔流の海(伊岡瞬/著) 五つの季節に探偵は(逸木裕/著) 誰かがこの町で(佐野広実/著) 戒厳(四方田犬彦/著) 探花(今野敏/著) 異常(エルヴェル・テリエ/著) 繁花 上・下(金宇澄/著)
- 随筆・詩などの文学 読んで、旅する。(伊集院静/著) 日本橋に生まれて(小林信彦/著) 100歳まで生きてどうするんですか?(末井昭/著) 作家と珈琲(平凡社編集部/編)
- その他の本 大人になるってどういうこと?(神内聡/著) 腰痛は座り方が9割(碓田拓磨/著) 75歳以上の免許更新が変わる!!! (高齢者安全運転支援研究会/監修) いちばん楽しいマンションの間取り図鑑(リノベる。/著) 日本の総理大臣大全(八幡和郎/著)

みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



『母の待つ里』
浅田次郎
新潮社



『おんなの女房』
蟬谷めぐ実
KADOKAWA



『読んで、旅する。』
伊集院静
小学館

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

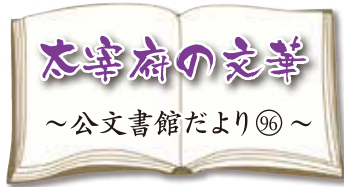
としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
4						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

○印の日は、お休みです。
開館時間 午前10時から午後6時まで
金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

筑紫氏、侍島を手に入れる

戦国時代前半の永正9年(1512)の閏4月、大内義興(筑前国守護)の重臣杉興長(筑前守護代)が、御笠郡筑紫村のうち侍島12町の地を太宰府天満宮の社家の満盛院に返還しています。この侍島(侍島庄・侍島村とも)とは、現在の筑紫野市下見付近に当たると言われています。その背景には、以前に筑紫能登守(尚門か)という人物が、大内氏の味方に参じた恩賞として、満盛院領の侍島を手に入れたものの、後に息子の又次郎が敵である少弐方に戻ってしまったため、同地を大内氏に没収されてしまった、という経緯があります。



～公文書館だより⑥～

筑紫氏は、戦国時代には肥前国の東部(現在の佐賀県鳥栖市周辺)を本拠にして、境を接する筑前国・筑後国にかけて勢力を広げていた有力な領主ですが、もともと御笠郡筑紫村(現在の筑紫野市筑紫)が本領で、ここを名字として名乗っていました。能登守は侍島の地を、名字の地である筑紫村の内だという理由でしきりに大内氏に望み、強引にこれを領有したようです。ところが、実際のところ侍島は筑紫村の内ではなく、永正9年に満盛院に返還する時、杉興長の家臣たちはそれを知っていたのにもかかわらず、間違つて「筑紫村内」と書いた文書を渡してしまったので満盛院に謝っています。恐らく大内氏側は、侍島を名字の地の内だとする筑紫氏の主張に当初は疑問を持たず、後になつてそれが間違いだと思つたのだらうと思われまふ。現状を地図で見ても、筑紫村があつた筑紫野市筑紫周辺と、侍島の故地とされる下見の間には宝満川が流れ、両者は隔てられています。

しかし永正16年(1519)3月に、大内義興はあらためて侍島(下見村)30町地を筑紫刑部大輔に与え、また、それ以降も筑紫氏の領地として、「侍島」「志田美」の地名がたびたび史料に出てきます。侍島の地をめぐる満盛院と筑紫氏の争いは、簡単には解決しなかつたようです。

【バックナンバーはこちら】
ページID 7241

太宰府市公文書館 大塚 俊司